



第3回

中学生中国文化体験訪問団 派遣事業報告書

友好都市・浙江省奉化市との交流事業



奉化市の「ホストファミリー」と記念撮影

期日 平成21年8月21日（金）～8月26日（水）

主催 入間市・入間市国際交流協会

<http://www.city.iruma.saitama.jp/i-society>

中華人民共和国浙江省奉化市

概 要

【友好都市提携年月日】 平成 12 年 5 月 16 日

【人口】 約 480,000 人

【面積】 1,253 k m² (入間市の約 28 倍)

【地理】 上海の南約 300 k m

【産業】 繊維産業、特産品は水蜜桃・茶・里芋・赤貝等
「中国水蜜桃の郷」と呼ばれている。

【観光】 溪口 (滝・湖等が有名)
雪竇寺 (56.7mの弥勒大仏)

【歴史】 蒋介石・蔣経国の故郷、布袋様の出身地

奉化市との間では、平成 8 年に「入間市奉化市友好交流協会」が設立され、その後、両市民が相互に訪問を繰り返すなど、主に民間による交流が活発に展開されて来ました。

平成 11 年に奉化市王副市長が入間市を訪問した際、奉化市から友好都市提携が要請され、これを受け、平成 12 年 5 月 16 日、友好都市締結議定書調印式が行われました。

奉化市からは市制施行周年式典・万燈まつりをはじめとする各種行事への訪問団が派遣されており、平成 17 年からは、中学生異文化体験訪問団の相互派遣も始められました。

目 次

●訪問団員名簿	1
●日程表	2~3
●お世話になった方々	4
●研修の記録写真	5~8
●訪問団員報告	
○中国に行って	小林 大輝 9~10
○中国で見たもの	的場 弘命 11~12
○初めてのホームステイ	宮崎 凌輔 13~14
○中国での体験談と成果	双木 一真 15~16
○溶け込んだ姿勢、充実した体験	河野 靖子 17~18
○千里の道も一歩から	増岡 哲也 19~20
●お別れ会	21~22

訪問団員名簿

訪問団員と

奉化市の友達



団長(引率者)
自治文化課
マスオカ テツヤ
増岡 哲也



中国語
通訳者
コウノ ヤスコ
河野 靖子



東金子中学校
3年
コバヤシ ダイキ
小林 大輝



金子中学校
3年
マトバ ヒロナガ
的場 弘命



奉化市の友達
ソウン ジュン
孫 震



奉化市の友達
チェン イ レイ
陳 一 雷



東金子中学校
3年
ミヤザキ リョウスケ
宮崎 凌輔



東金子中学校
3年
ナミキ カズマ
双木 一真



奉化市の友達
シャー チャン
夏 晟



奉化市の友達
ワン ショウ シュウ
王 蕭 瀟

日 程 表 「 1 」

- 入間市国際交流協会総会
日時 5月20日(水) 午後6時30分～
会場 産業文化センター2階 第2集会室
内容 被派遣者紹介、派遣事業における抱負を語る
- 第1回事前研修
日時 5月30日(土) 午後5時30分～午後7時00分
会場 産業文化センター2階 研修室
内容 派遣事業概要説明・事業日程・奉化市について・パスポート取得方法・写真撮影・役割分担について
- 結団式及び第2回事前研修
日時 6月27日(土) 午後5時30分～午後7時00分
会場 産業文化センター2階 研修室
内容 市長、教育長、市国際交流協会会長・同副会長の出席により結団式を実施
旅行保険・準備用品・外貨両替・旅費・互助会費・ホームステイの方法等について
- 第3回事前研修
日時 7月18日(土) 午後5時30分～午後7時00分
会場 産業文化センター2階 研修室
内容 中国語のレッスン、お別れ会の出し物、ホストファミリー情報、旅費・互助会費の集金について
- 第4回事前研修
日時 8月 8日(土) 午後5時30分～午後7時00分
会場 市民会館3階 3号室
内容 滞在日程細部説明・質疑応答・各役割確認・出し物練習・報告書作成について
- 派遣期間 8月21日(金)～8月26日(水) 日程表「2」参照
- 帰国報告会
日時 8月28日(金) 午前9時30分～午前10時
会場 市長室
内容 市長・教育長・市国際交流協会会長へ帰国報告
- 入間万燈まつり
日程 10月24日(土)・25日(日)
会場 産業文化センター周辺
内容 市国際交流協会「世界のともだち広場」運営・協力

日 程 表 「 2 」

期 日	スケジュール	備 考
8月21日(金)	05:00 市役所正面玄関集合 05:05 市役所発(市中型バス) 07:50 成田空港着(第2ターミナル3F) 09:50 成田空港離陸・昼食(機内食) 12:15 杭州空港着(錦屏中学バスでお迎え) 16:00 奉化市着・ホストファミリーの家庭へ 17:30 歓迎会(奉化大酒店) ホストファミリー宅(泊)	パスポートチェック 【 制 服 】 (日本航空) JL635便
8月22日(土)	08:30 藤頭村見学 09:30 溪口見学 09:45 蔣介石の故郷を見学 11:30 昼食(溪口賓館) 12:40 三隠潭・妙高台・千丈岩・弥勒大仏見学 16:00 奉化市着 ホストファミリー宅(泊)	【 私 服 】
8月23日(日)	中国家庭生活体験 各々ホストファミリーとの1日を過ごす。	【 私 服 】
8月24日(月)	08:30 錦屏中学校見学・懇談 10:10 市内見学(岳林広場・図書館等見学) 11:30 昼食(山石農庄) 13:00 農村生活体験(~15:30) 16:20 奉化市着 17:30 お別れ会(奉化大酒店)	【 私 服 】 中学校へ記念品 奉化市へ記念品
8月25日(火)	06:15 奉化市発 10:07 杭州駅発(新幹線での移動) 11:25 上海南駅着 上海博物館・豫園・老街・外灘 東方明珠タワーなど市内見学 昼食(黄浦1号)・夕食(四海金悦) (宿 泊) 虹橋賓館(上海市内ホテル)	【 私 服 】 パスポートチェック ガイドと待ち合わせ 新幹線D5658便
8月26日(水)	10:00 虹橋賓館(上海市内ホテル)発 10:55 上海虹橋空港着 12:55 上海虹橋空港離陸 昼食(機内食) 16:40 羽田空港着(国際線ターミナル) 20:00 市役所正面玄関着	【 私 服 】 パスポートチェック 両替(元→円) (日本航空) JL8878便

お世話になった方々



【奉化市政府弁公室】汪仁芳 副主任



右：【錦屏中学校】余武彬 副校長

左：【錦屏中学校】沈一君 政教主任



【奉化市政府外事弁公室】朱薇芬 主任



【奉化市人民政府】周海飛 副市長



【錦屏中学校】方智 先生



左：【奉化市日本語通訳者】李芸 さん

研修の記録写真

8月21日(金)

いよいよ中国・奉化市へ出発

早朝5時、市役所前で市国際交流協会会長らに見送られ、庁用バスにて成田空港へ向けて出発。いざ、奉化市へ！



▲ 出発前 記念写真



▲ 日本よさらば！成田空港



▲ JAL635 便



▲ 中国：杭州空港



▲ お世話になります
：奉化市錦屏中学のお迎え！

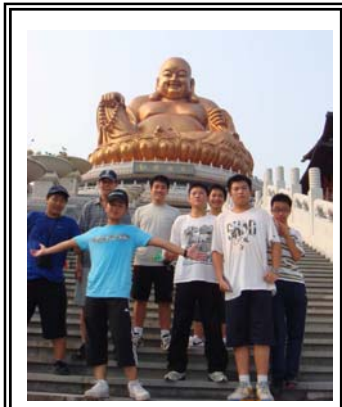


▲ 歓迎会の様子

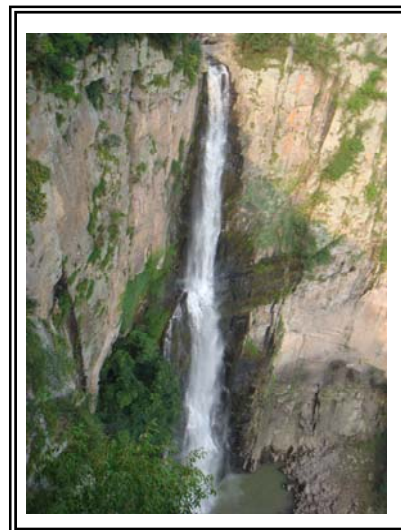
8月22日(土)

奉化市、景勝地（溪口など）見学

この日は中国屈指の景勝地に行きました。中国の自然・文化について学ぶことができました。



▲ 弥勒大仏様(高さ56.74M)



▲ 溪口の千丈岩と滝

8月23日(日)

ホストファミリーとの1日

この日は、ホストファミリーと自由に過ごし交流を深める、大切な1日となりました！
言葉も通じにくい環境の中、コミュニケーションを図ろうと、がんばりました。



▲ ホームステイでお世話
になった奉化市の家庭の様子



▲ 黄賢村公園の頂上にて
ホストファミリーのショット！

8月24(月)

奉化市内見学と農村生活体験

市内見学後、錦屏中学校で日本の学校との違いなどについて意見・情報交換をしまし
た。また、卓球とバスケットボールをおこない、より一層交流
を深めることができました。

農村生活では、食生活や川遊び・乗馬を体験しました。

錦屏中学校
の「朋友」



▲ 錦屏中学校で意見・情報交換

本場での卓球勝負？ →





▲ ~ 農村生活体験の様子 ~ ▲



▲ 全員?で「薔」を合唱

▲ お別れ会の様子

▲ お別れ会でのギター演奏

8月25(火)

奉化市とお別れ・上海に向けて出発

いよいよこの日は、お世話になった奉化市の皆さんとお別れです。ホストファミリーをはじめ、錦屏中学校・市関係者の皆さん、本当にありがとうございました。
杭州駅でお別れし、上海に向けて新幹線でお発!



▲ ホテル前でのお別れの様子 ▲ お世話になりました!



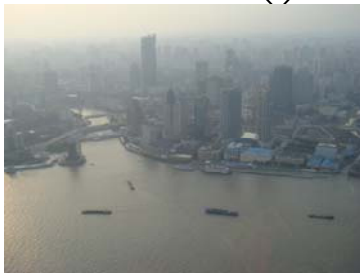
▲ 中国の新幹線 D5658



▲ 豫園の様子



▲ 上海博物館前で記念写真



港とビル街の様子



▲ 上海のシンボルタワー
「東方明珠塔」



8月26(水) 上海発羽田へ、ひと回り成長しての帰国

とうとう中国での生活も最終日。ホテルを出発し、上海虹橋空港へ。約3時間半空を舞い、無事に日本(羽田空港)に帰国。異国を知ることで、日本の素晴らしさを改めて実感しました。

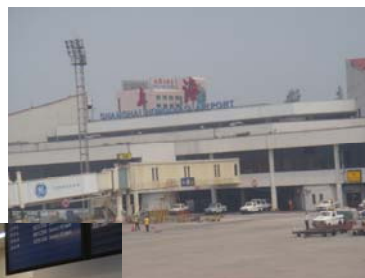


▲ 宿泊した
虹橋賓館



▲ 上海虹橋空港

(羽田空港到着)



▲ 飛行機の中で
お疲れの様子

中国に行って

東金子中学校3年 小林 大輝

今回僕は、8月21日から8月26日まで、中国の奉化市と上海を訪問しました。最初の4日は奉化市で残りの2日は上海でした。

1日目の夜は、奉化市の方々が歓迎パーティーを開いてくれました。

2日目は、藤頭村、溪口への見学や、蒋介石の故郷を見に行ったりもしました。午後は、山の中に建てられた凄い建物や、滝を見ました。

3日目は一日中ホストファミリーの方と共に過ごしました。午前中は、山へ行ったり川へ行ったりと、とても貴重な時間を過ごしました。午後は釣り堀へ行き、何の魚かはわかりませんが、とても大きな魚を釣りました。釣った魚は、その日の夕飯で美味しく頂きました。

4日目は、奉化市にあるホストファミリーの中学生が通っている、錦屏中学校の見学をしました。僕は元卓球部で、中国でも卓球をしてみたいなと思っていました。それで、錦屏中学校の体育館で、中学生や錦屏中学校の副校長先生とも卓球ができたときは、とてもうれしかったです。

その日のお昼は、山石農庄という所で食べました。そこで生まれて初めて蛇の肉を食べました。小さい骨がたくさんあって少し食べにくかったが、味は意外と美味しかったです。食事が終わったあとは、みんなで川へ行って遊びました。

夜は、お別れパーティーをしました。お別れパーティーには奉化市の副市長さんも来ました。皆それぞれ出し物などを披露しました。しかし、体調を崩してしまい参加できなかった人もいて、少し残念でした。

5日目は、朝早くにホストファミリーの方たちと別れ、杭州駅発の新幹線で、上海まで行きました。上海では、上海博物館や東方明珠タワー、上海の街並を観ました。夜はホテルに泊まりました。

6日目は上海虹橋空港へ行って、飛行機に乗り、羽田空港からバスで入間市役所まで戻り、帰宅しました。



今回、この中学生中国文化体験訪問派遣事業に参加した中学生4人は、僕を含めて東金子中学校の3人と、金子中学校の1人でした。同じ学校の2人は友達でしたが、金子中の的場君とは初対面で、最初は張り詰めた空気が漂っている。

たが、中国への訪問のための研修を重ねていくにつれて、仲良くなっていき、中国では助け合うことも出来、楽しく過ごせました。

僕がホームステイした家の孫震は、一人っ子でした。これは社会の授業でやった、「一人っ子政策」というものの影響だと思いました。家はマンションで、外見はあまりきれいでなく、むしろボロボロな感じでしたが、家に入ると驚くほどキレイで広かったです。

僕は少し中国語が喋れたので、家族とのコミュニケーションをとることは、少し楽でしたが、どうしてもわからない場合は、英語やジェスチャーを使って補いました。ホストファミリーはゆっくり話してくれたり、とても気をつけてくれたりして、うれしかったです。

家族と過ごしていて特に驚いたことは、毎日果物を食べていることです。朝に食べたり、昼食後に食べたり、夕飯前に食べたりしました。

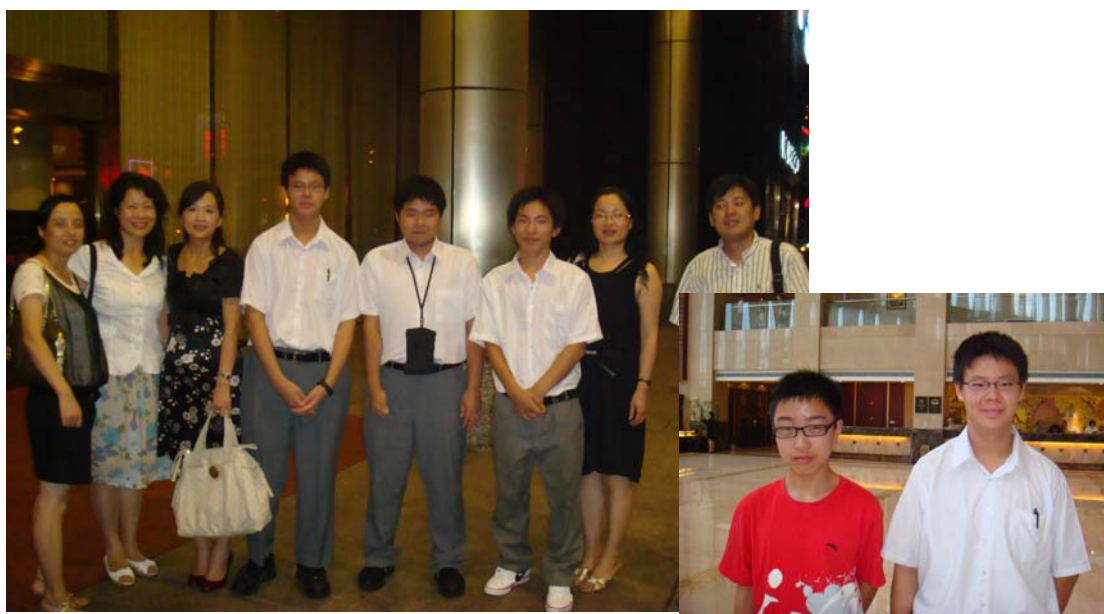
上海では、あの有名な東方明珠テレビタワーに上りました。テレビタワーには、床がガラス張りになっている階がありました。そこではテレビタワーの下が丸見えで少し怖かったけど、一応ガラス張りの上を歩きました。

上海の町で、買い物もしました。買い物でぶらついているときは、あまり警戒を解くことができませんでした。怪しい人が少しいたからです。でも、店も見ることができたし、気をつけるという点で、勉強になったので良かったです。

これから先の将来、中国の会社などと商売をする可能性が少しはあるので、若いうちから中国のことをもっと詳しく知っていきたいです。中国訪問した経験は、けっこう生かせると思います。そして、僕は台湾人と日本人のハーフなので、中国語を完璧にし、他の言葉もほどほどにわかるようになっていけたらいいと思いました。

今回の、中国訪問でご協力いただいたホストファミリーの方々、市役所の方々、ツアーガイド等の皆様に、深く感謝申し上げます。

ありがとうございました。



中国で見たもの

金子中学校3年 的場 弘命

僕は今回とてもいい経験をしながら、ビックリした事が2つありました。

1つ目は、交通ルールです。

中国の人は、事故が怖くないのかわかりませんが、様子を見てどんどん割り込んでくるし、人が横断歩道を渡っていても、スピードを緩めるだけで、止まりませんでした。僕は、その様な光景を毎日、いや横断歩道を見るたびに感じていました。僕が横断歩道を渡ったときは、一雷（奉化市の中学生）が引っ張ってくれたので、なんとか無事に渡ることができましたが、とても危険だと思いました。

他に、中国ではバイクが日本より多かったと思います。バイクのタクシーもありました。日本では許されていませんが、ヘルメットを着用しなかったり、2人乗りで通行したり、普通に皆がしていました。

2つ目は、料理です。

予想していた料理とは違って、日本でも出てきそうな料理がありました。海老や蟹は、ほぼ毎回出てきていて、日本ではめったに食卓に出ない物を毎日食べることができて、「いいのかな」と思ったほどでした。

ジュースでは、味が濃かったり、薄かったり、甘かったり色々ありました。特に飲むヨーグルトは、日本のものとは全然違い、あまりのどを通りませんでした。

中国の家庭料理は23日の夜に食べました。

23日は、昼間一緒に回ったホストファミリーの親戚とホストファミリーの人と食べました。蟹や海老、手羽先など色々な物が出てきました。蟹を食べようとしたとき、皆がかぶりついて食べる仕草を見て最初はビックリしました。日本だと、身を中から取って食べるけど、中国は違って、食べ方1つとっても違うのだなと思いました。

僕も実際にやってみるとあまり上手く出来ず、親戚のお母さんが身だけを取ってくれました。他にも、海老の殻のむき方を一雷と一雷の妹が教えてくれて、



僕が思っていたむき方と違っていたので、ビックリしたのと同時に勉強にもなりました。

22・23・24日は朝から外食で、ビックリしました。22・23日は、ラーメンで、24日は、中国のファーストフード店で食べ、ワンタンスープがとても美味しかったです。中国人は「朝から油っこい物を食べて平気なのかな」と思いました。

25日に奉化市の皆さんとお別れをして、上海に向かいました。

上海の観光地では、色々な所を見学しました。豫園では、初めて見学地で、買い物をしました。僕は、お茶屋で250gで50元の紅茶を買いました。豫園は、値切れる場所でしたが、あまり値切りに挑戦できなかったのが残念でした。

今回は、楽しむものだけではなく、近くて遠い国中国の異文化などを学ぶことが出来て良かったです。



初めてのホームステイ

東金子中学校3年 宮崎 凌輔

僕は、今回ホームステイをしたことで、大切なことを学びました。

それは、僕たちが中国にホームステイしに行くときに市役所の方から言われた国際交流（理解）、社会貢献、自己責任です。

一つ目の国際交流（理解）について

僕は初めてホームステイをするため相手の家族の方々にどのように接していかかわかりませんでした。でも、この国際交流（理解）をしっかりやろうと思い積極的に話しかけてみたら、すぐに打ち解けられました。さらに、日本のことや自分の家族のことを伝えたり、ホストファミリーは中国の生活の仕方、食べ物など、たくさん教えてくれました。でも、お互いに言葉が通じないときもありましたが、そこはジェスチャーなどを使って対応しました。

次は社会貢献について

僕は中国から帰ってきてホームステイでの出来事や、日本とは違うところなどを家族や友人に語りました。そして、中国で学んだことをこれからの生活にどう生かすかが社会貢献なので、自分の今の生活にどのように生かしていくかを考えて、学んだことをこれからの生活に活かしていきます。

最後に自己責任について

僕はホームステイ最後の日、みんなで出かけているときにお腹を壊して熱まで出してしまいました。そのせいにより、ホームステイ最後の集大成ともいえる、お別れ会に出ることができませんでした。そこで僕は、いろいろな人たちに迷惑をかけてしまいました。そこに、僕は自分の自己責任の無さを感じました。

翌日、体調は戻りました。僕たちがホームステイ先の家族と別れるまで家族の方は心配してくれました。僕は涙が出そうになりましたが、笑顔で別れのあいさつをしました。



僕にとってこのホームステイの思い出はとっても貴重な経験になりました。

さらに、国際交流（理解）、社会貢献、自己責任の三つの言葉の重要さもわかりました。

今度は中国だけでなく、いろいろな国に行き、友好関係を築いていきたいと思
います。



中国での体験談と成果

東金子中学校3年 双木 一眞

今回の報告書は市役所自治文化課の課長さんが言っていた3つの目標を基に書いていこうと思います。

まず、1つめに言っていたのが「国際交流、理解」です。

この目標については、自分なりにホームステイ先の家族や訪問する際にお世話になる方々と積極的に会話し、お互いの交流が深まればいいと思い、中国に行きました。そして、中国に行き、その成果としては、日常の自分よりも積極的に話し、相手の言っていることを出来るだけ理解しようと思いました。しかし、どうしても言葉が通じない所があったので、その時は出来る限りの身振り、手振りで伝えたり、漢字を書いたり、絵を描いたりして伝えました。それでも伝わらない時はパソコンの翻訳機能を使い、とても楽しく交流を行うことができました。

そして二つ目は「社会貢献」です。

この目標を達成するには、中国でいろんな物を見たり、聞いたりと自分で行動を起こさなくてはいけないと思いました。そして、帰ってきてから家族や先生、友達に話すことができなくては意味がないという気持ちで、中国へ行きました。



結果としては見たり、聞いたりすることはだいたいでき、たくさんの人にいろんな話しをすることができました。しかし、自分から行動を起こすというのは結構難しく、言うにも気が引けてしまい、伝え方もどうしたらいいか分からなくて、そのまま終わってしまうこともありました。

最後に言っていたのが「自己責任」です。

これは言葉のままにパスポートや自分の荷物をしっかり管理して、紛失しないようにするという事だと言われました。そして、自分で思い付いたのが自分は写真撮影担当係なので、その仕事をしっかりやろうと思いました。しかし、その結果は、ホストファミリーと一緒に一日過ごすという日にカメラを忘れ、とてもいいところだったのに写真として残すことが出来ませんでした。その他のパスポートなどの管理はしっかりできて、何も紛失することもなく無事に帰ることが出来ました。

中国への派遣事業は、とても良い体験をすることができました。この経験を生かして、いろんな方々と積極的に話すことができればと思います。



溶け込んだ姿勢、充実した体験

河野 靖子

「異なった風俗・習慣・文化を持つ国の人々と交流することにより、相互の違いを認識し、相手の立場を認める心を育て、そして、自国や自国の人々のことを正しく伝える。これが、国際交流の大切な目的の一つです。」

以上は、訪問団を率いる増岡団長が8月24日の夕方、奉化大酒店で行われた、お別れ会での挨拶の言葉でした。

今回の体験は、正にこのことをモットーに実行したものでした。

私には、印象に深く残ったことがあり、それは二つの「溶け込む」ということです。

一つは、入間市の中学生が、早く奉化市の中学生に溶け込んだことでした。もう一つは、増岡団長が自然体で奉化市の皆様に溶け込んでいたこと、しかも、両市中学生にも溶け込んだことでした。

奉化市の山水・町を見学中、農村の食事と農村生活の体験中、学校の見学中、バスでの移動中など、両市中学生には仲良く、打ち解けた明るい雰囲気がいっつも漂っていました。

錦屏中学校では、両市中学生が卓球やバスケットボールのスポーツを通じて、一層お互いの絆を深めました。

そして、お別れ会の最後の出し物として、「両市中学生と一緒に『北国の春』を歌いましょう」と錦屏中学校の愉武彬副校長先生からご提案をいただきました。これに対して、この歌を知らない入間市の中学生の代わりに、増岡団長が共演し、中国語と日本語が入り混じった歌声が、とても調和的なメロディになりました。

このように団長も入間市の中学生も、偏見を持つことなく、広い心で現実の中国を目で見、身体で体験することにより、生活・文化を学び、充実した素晴らしい交流ができたと思います。

長年に渡り、入間市の国際理解教育に参加させていただいている私は、その実りが着々と確実に結び始めた実感しました。

また、三隠潭と弥勒菩薩の大佛像を見学に行く途中、増岡団長が両市の中学生たちを率いて一緒に長い階段を競争して登るといったエネルギーギッシュな場面や、錦屏中学校の見学中に入間市の中学生全員が質問をするなど、しっかりと学習にも取り組む様子から、新たな未来像が私



の目に映りました。未来の日本社会と国際交流の使者を担える立派な派遣団だったと思います。

このような体験は、日中両国間の理解・両市の交流を深めるだけでなく、お互いを鏡として、自分は相手から学ぶことが沢山あるということが分かったと思います。例えば、錦屏中学校の副校長先生は、入間市の4人の中学生が落ち着いて纏めた挨拶をしていたことから、中国の学校での生徒に対する訓練の不足を感じたようです。入間市の中学生は、奉化市のホストファミリーが入間市の中学生を親戚（叔母さん、叔父さん、いとこ）に逢わせ、一緒に食事や行動をさせたことから、中国人の人情の厚さを実感したことでしょう。

中国では、「四海の中の全てが兄弟である」という古い言葉があります。その意味は、全ての人間は人種・民族・国籍を問わず、兄弟のように愛し合うべきであるということです。世界各国の人々が偏見を捨てて広い心を持てば、正にその言葉通りとなるのではないのでしょうか。



千里の道も一歩から

老子・・・中国の思想家：《意味》大きな仕事や計画は、まずは一つずつから始めるのがよいということ

団長 増岡 哲也

当市の中学生が、友好都市である奉化市の中学生宅にホームステイをし、中国文化を体験する「中学生中国文化体験訪問団派遣事業」は平成17年度に始まり、今回で3回目の実施となりました。

この事業は、私と同じ立場であった諸先輩方の地道な努力により始まり、そして築きあげられ、現在では奉化市との交流のメイン事業となっています。

今回の中学生の派遣人員は4名（全員男子）であり、前回の半分となりました。昨年末からの景気の悪化などにより応募者が減少したものと思われます。その中でも勇気と好奇心、そして挑戦意識を持った中学生が手を挙げ、更に彼らの背中を後押ししていただいた保護者の理解により、市と市国際交流協会の選考を経て、4月末に被派遣者として決定しました。

準備も着々と進めてきた矢先の5月上旬、世界的に流行した「新型インフルエンザ」の影響を受け、他市では派遣事業等の中止決定をしたと報道される中、本当に実施できるか不安になりました。中止することは簡単でしたが、出発を待ち望んでいる中学生、そして今この時期にしか経験できないことをさせてあげたいと思う保護者の気持ちを考えました。一方、危険を冒して実施すべきかといった考え方もあり、難しい判断を迫られました。

そんな中、市及び市国際交流協会では判断基準を設け、外務省や厚生労働省をはじめ、派遣先などの情報収集に努めたうえで、慎重に判断することとしました。最終的には実施することとなりましたが、前途多難を思わせる気を抜くことができないスタートとなりました。

派遣前には、結団式や4回の事前研修会を重ね、中学生同士も会うたびに打ち解け、互いに尊重する場面もみえ始めました。

その中で、私の上司である自治文化課長から中学生に対し、3つのキーワードが与えられました。

1. 交際理解 (交流) 2. 自己責任 3. 社会貢献

私は派遣期間中、入間市の中学生代表として誇りを持つよう話し、このキーワードを常に彼らに伝え、そして思い出させるため、何度も何度も口にしました。きっと、彼らの耳にはタコができたものと思います。

ホームステイのとき、景勝地などの見学のとき、食事のとき、帰国報告会のときなど、この3つのキーワードが彼らの心と体を動かし、そして言葉にも表れたものと感じています。

4人の中学生にとっては初めてのホームステイでしたが、言葉も通じにくい環境の中で、交流を深め、生活・文化を学ぶなど、貴重な体験ができたと思います。そして、滞在中は、歓迎会やお別れ会を含めた様々な場で、ホストファミリーをはじめとする、奉化市関係者との交流が深められ、目的の一つである友好関係の発展に寄与することができたと考えております。



慣れない地での生活からか、1名が腹痛・嘔吐・微熱を生じ、お別れ会途中から私の部屋で休ませることになりました。本人が一番辛かったと思いますが、団員も仲間を心配し、不安を抱いていました。彼は残念ながらホストファミリー宅には最後の1泊は宿泊できませんでしたが、翌朝には回復し、皆に合流することができました。その他は、事故や怪我もなく、訪問団6名が一致団結して、有意義な日々を送ることができました。

(お腹を壊した彼は、帰国報告会の中で「健康管理面で自己責任が果たせなかった」ことを話し反省していました。そのような面からも大きな成長があったと私は感じました。)

この事業が実施できたことで、私個人としても、近くて遠い国と言われる中国を自分の目で見、そして異文化を体験し、一生忘れられない思い出を作ることができました。

4名の中学生は、団長を務めた私から見ても、異文化を存分に体験することができ、数日間で大きく成長したと思います。そして、それぞれが沢山の感想を持ち帰り、自分だけの宝物とせず、家族・友人・地域へと還元して欲しいと思います。そして、キーワードの一つである「社会貢献」に結びつけて欲しいと期待しています。

上記のように、私たちは中国に行きとても大切なことを学ぶことができたので、難しい判断の中、中学生を派遣して本当に良かったと考えます。

来夏は、奉化市の中学生がより充実した入間市体験・日本体験をできるよう、今回派遣された中学生自らが、中国で感じたことを活かして彼らを受入れることが、異文化理解であり、奉化市との友好関係の発展に貢献できるものと強く感じました。

最後に、2009.8.28付の新聞記事で日中世論調査から「中国の印象は良くない」が73%あり、食品の安全に関することがその理由の大半を占めていました。しかし、私たち訪問団は、農村地などでは貧富の差を感じる所もありましたが、その他街並みなどのハード面ではもの凄いスピードで発展をしており、その勢いには目覚しいものを感じました。当然のことながら、奉化市の皆さんの温もりにも触れ、とても良い印象を持ちました。

国際交流で大切なことは、互いに思いやる気持ち等、一人ひとりの心の触れ合いだと思います。

小さなことからではありますが、まずはこのように市レベルでの交流を深め、それをきっかけに、国家同士の友好が深められ、最終的には世界平和へと繋がれば良いと思います。

お別れ会

【2009年8月24日（月） 奉化大酒店】

進行：奉化市 王 蕭 瀟
入間市 的場 弘命

両市中学生の出し物

No	出 し 物	備 考
1	【奉化市】 詩の朗読 稔奴嬌「赤壁懷古」	陳 一 雷
2	【入間市】 サックス演奏 「歌声笑顔」 ギター演奏 「メタルギア」	宮崎 凌輔 小林 大輝
3	【奉化市】 二胡演奏 「四季の歌」	夏 晟
4	【入間市】 手 品 「トランプ手品」 合 唱 「蕾」	的場 弘命 全 員
5	【奉化市】 合 唱 「朋友」	全 員
6	【入間市】 入間市の紹介 「概要説明」	的場 弘命 通訳：河野靖子
7	【奉化市】 合唱（両市共演） 「北国の春」	奉化市中学生 と入間市増岡哲也



蕾（つぼみ）

アーティスト コブクロ ・ 作詞 作曲 小淵健太郎

涙こぼしても 汗にまみれた笑顔の中じゃ
誰も気付いてはくれない
だから あなたの涙を僕は知らない

絶やす事無く 僕の心に 灯されていた
優しい明かりは あなたがくれた 理由なき愛の灯

柔らかな日だまりが包む背中に ポツリ 話しかけながら
いつかこんな日が来る事も
きっと きっと きっと わかってたはずなのに

消えそうに 咲きそうな 蕾が 今年も僕を待ってる
掌じゃ掴めない 風に踊る花びら
立ち止まる肩にヒラリ
上手に乗せて 笑って見せた あなたを思い出す 一人

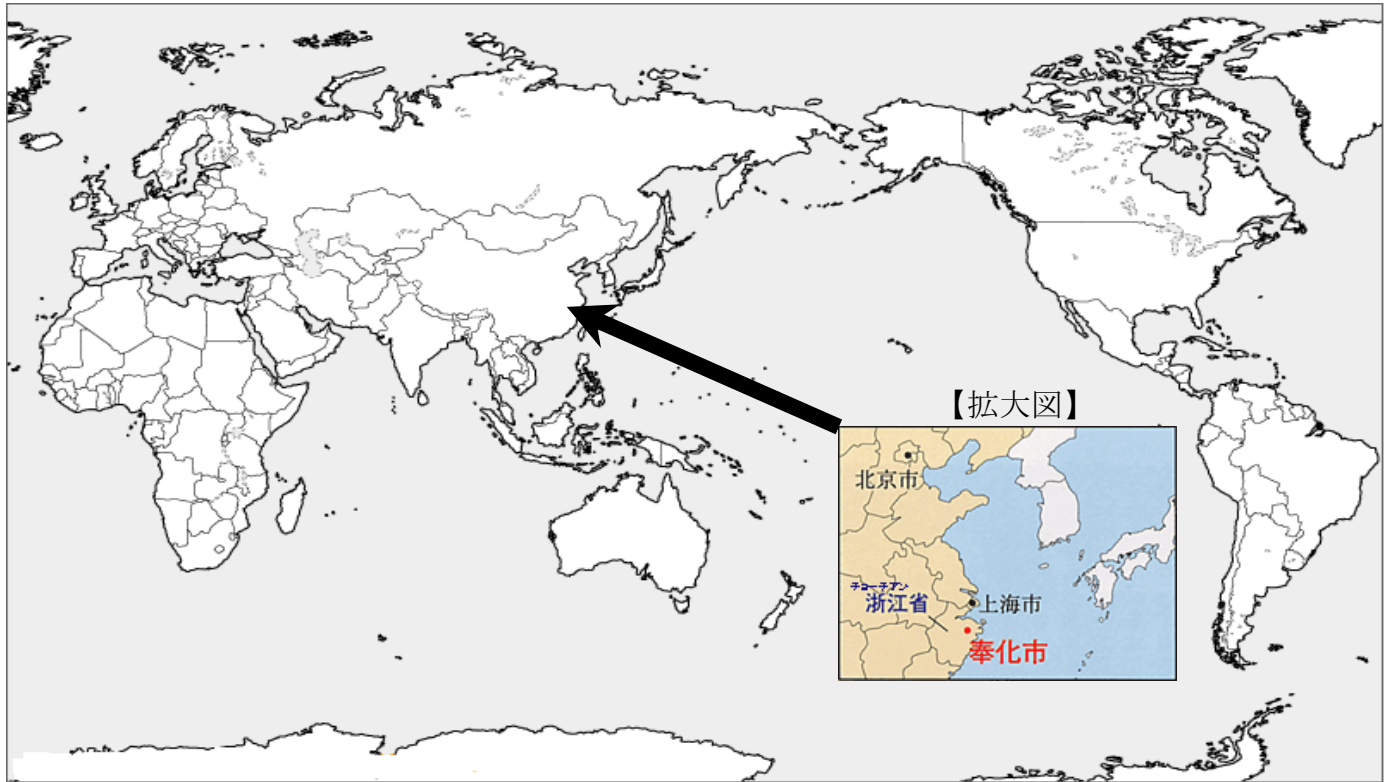
ビルの谷間に埋もれた夢を いつか芽吹いて
花を咲かすだろう 信じた夢は咲く場所を選ばない

僕等 この街に落とされた 影法師 みんな光を探して
重なり合う時の流れも
きっと きっと きっと 追い越せる日が来るさ

風のない線路道 五月の美空は青く寂しく
動かないちぎれ雲 いつまでも浮かべてた
どこにももう戻れない
僕のようにだとささやく風に キラリ舞い落ちてく 涙

散り際に もう一度開く花びらは あなたのように
聴こえない頑張れを 握った両手に何度もくれた

消えそうに 咲きそうな 蕾が今年も僕を待ってる
今もまだ掴めない あなたと描いた夢
立ち止まる僕のそばで
優しく開く笑顔のような 蕾を探してる 空に



編集・発行

〒358-8511 入間市豊岡1-16-1
入間市 自治文化課 国際交流担当

TEL 04-2964-1111 内線 2146・2147

FAX 04-2965-0232

URL www.city.iruma.saitama.jp/i-society

E-mail i-society@city.iruma.lg.jp